

F-39 HEIBの実態について
共立女大家政 松島千代野

目的 家庭経営学研究委員会関東地区のヒーブ研究グループが、企業の中で働く家政学者の促進発展をめぐすことと目的として行なっている研究のうち、本報は、50周年を迎えたアメリカHEIBの状況について下記資料をもとにまとめたものである。

方法 ホームエコノミスト・イン・ビジネスの1993年会員として登録済みの2285名(全標本)を基本資料として、32州43支部6地区別および未既婚者別に分類し、それぞれ8職種に対する単純集計とあして現況のデータを求め、基本的な検討を試みた。(8職種=コミュニケーション職域、消費市場の対象となる住居設備・家族サービス・食物栄養・家庭商品・被服繊維関係、ホーム・サービス、集団給食管理。)

結果 東北地区(ニューヨーク中心)は、「コミュニケーション」と「食物栄養」の職域で活躍している家政学者が多い。中北地区(シカゴ中心)も「食物栄養」関係の職種がめだつ。HEIB会員数の多い「ホーム・サービス」職は中南地区(テキサス中心)の南部に集中している。「被服」関係の職種は、ニューヨーク市を除いては、企業界における活躍が不十分な。8職種の中の主要会員は、「ホーム・サービス」の最高750名、次いで「食物栄養」694名、「コミュニケーション」350名に対して「被服」は154名にすぎない。

以上の基本データを得たことにより、各職種に関する性格内容や家政学者として企業界における役職や活動の実際を知るための深層分析の必要を生じ、全標本のアンケートをめぐして質問紙法による追跡調査を去る8月に実施し、現在考察中である。